

2025年度大学入試に関する情報を整理

本特集ではまず、高大接続改革が進められる背景にある社会の変化や、近年の大学入試の傾向を押さえるとともに、2022年9月27日時点で各大学が公表した25年度大学入試に関する情報の中で、高校が目すべきポイントを整理。さらに、個別大学の動向として、多面的・総合的評価を推進する4大学に、25年度入試に関する方針や、その背景にある大学が求める人材像、大学の学びを通じて育成する資質・能力などについて、話を聞いた。

日本の学校教育の変化

「探究」「文理横断」「AI人材」を切り口に、大学・高校教育が変わる

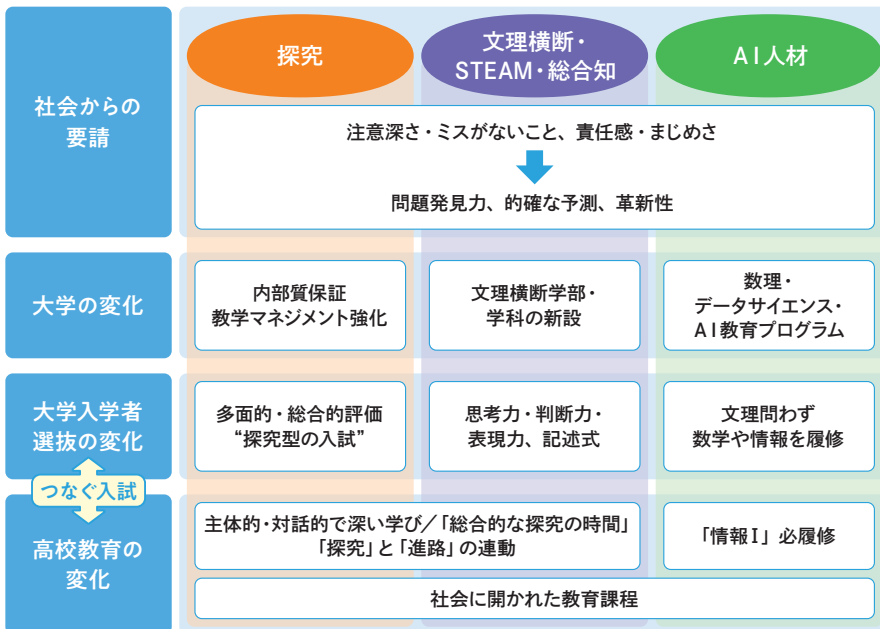
教育・人材に関する政策の方向性をまとめた「Society5.0の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ」(*1)では、デジタル化が進み、新たな価値創造とイノベーションが求められる社会においては、文理を問わず、データサイエンスの知識・技能と、様々な視点を備えた人材が必要であることが示された。そうした人材の育成に向けては、文理横断的に学ぶことが大切であると指摘している。

また、経済産業省「未来人材会

議」では、2050年に必要の高い能力として、「問題発見力」「的確な予測」「革新性」などを上位に挙げた。そして、それらの能力の育成に向けては、知識の習得と探究力の鍛錬との間をらせん状に循環しながら能力を高めていく教育の重要性が示唆された。

大学教育は、そうした社会の要請に対応して既に変化している。その1つが、「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」だ。同制度は、デジタル人材の不足に対応するため、数理系の基

図1 高大接続改革を取り巻く環境変化の全体像



※編集部で作成。

*1 内閣府に設置された、重要政策に関する会議の1つである「総合科学技術・イノベーション会議」の教育・人材育成ワーキンググループがまとめた。

近年の大学入試の傾向

総合型・学校推薦型選抜の拡大が継続。様々な方法で「探究型の入試」を実施

基礎的リテラシーの裾野を広げることで、トップクラスの人材を育成する施策である。数理・データサイエンス教育に関する正規課程教育のうち、一定の要件を満たした優れた教育プログラムを文部科学省が認定・支援する。21年度から認定が始まり、基礎的な能力を育成する「リテラシーレベル」には、国公私立合わせて162大学が認定された。同プログラムは、多くの大学が、文理を問わず全学共通科目として実施する予定だ。そのため、高校においても、文理を問わず数学や情報をしっかり履修しておかなければ、大学入学後に厳しい状況に置かれることが予想される。

以上のような情報から、①探究、②文理横断・STEAM教育・総合知、③AI人材が、今後の日本の教育におけるキーワードであり、社会↓大学教育↓大学入試↓高校教育と、連動していることが分かる(図1)。高校教育では、探究学習や数理系の学び、文理分断からの脱却が、今後一層推進されていき、大学入試への対応もそうした視点が鍵となっていくだろう。

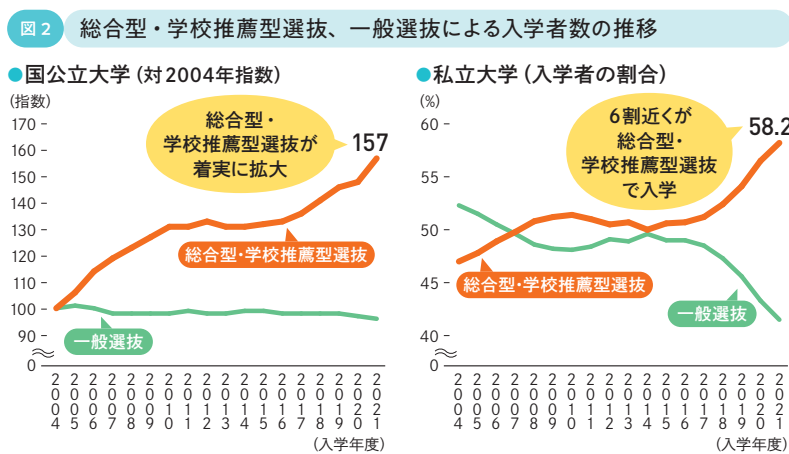
大学教育の変化に応じて、大学入試での評価の重点が転換しており、総合型選抜と学校推薦型選抜による入学者数は着実に増加している(図2)。国立大学協会が目標に掲げる、両選抜方式の入学者が入学定員の30%(*2)には到達していないが、国立大学では、22年度の入学定員の19%が両選抜方式の入学者だ(*3)。

総合型選抜では、探究の観点で受験生を評価し、スムーズな高大接続を図ろうとする大学が増えている。大学はまさに探究をする機会であり、高校時代の探究が大学での研究につながると思われるから。各大学は選抜方法を様々な工夫しており(図3)、いわゆる「探究型の入試」の拡大傾向は、今後とも続くと予想される。

大学での生徒の活躍を考えると、「探究型の入試」で評価される

ような生徒を育むことは、大学進学者を送り出す高校側の役割とも言える。学習指導要領の解説によ

ると、「総合的な探究の時間」では、探究テーマと自己のキャリア形成の方向性を関連づけることが大切であると、繰り返し述べられている。自分が高い関心を持ち、生涯を通じて追究していきたいことと、大学で研究を深めたいことが一致した生徒は、「探究型の入試」にスムーズに対応できるだろう。



* 文部科学省公表資料を基に編集部で作成。

図3 「探究型の入試」の種類と、実施大学

実績・プロセス評価型	探究活動の成果やプロセスから得たものを評価	<ul style="list-style-type: none"> 大分大学経済学部/総合型選抜(課題探究) 桜美林大学/探究入試 Spiral 工学院大学/探究成果活用型選抜
高大接続型	大学と連携した探究活動の成果を評価	<ul style="list-style-type: none"> 金沢大学/KUGS 特別入試 崇城大学/探究活動プログレス選抜
資質・能力評価型	探究型の資質・能力を評価	<ul style="list-style-type: none"> お茶の水女子大学/新フンボルト入試 奈良女子大学/探究力入試「Q」 島根大学/へるん入試 立命館アジア太平洋大学/世界を変える人材育成入試~ロジカル・フラワー・チャート入試~

※編集部で作成。

* 2 「2020年度以降の国立大学の入学者選抜制度—国立大学協会の基本方針—(令和3年9月17日改訂)」による。
 * 3 文部科学省「令和4年度国立大学入学者選抜の概要」による。

基本的に現行課程を引き継いだ科目設定。 地理歴史・公民の科目選択に要注意

25年度入試の出題教科・科目は、各大学が22年度中に予告・公表することになっている。文部科学省から、可能な限り早期に検討し、予告・公表するよう通知があったが、22年9月時点で予告・公表した大学は決して多くない。例えば、「情報Ⅰ」の扱いや大学入学共通テストで課す科目のみを公表するなど、段階的に公表する大学も少なくない。

ここでは、各大学が公表した22年9月時点の情報から分かることを整理した。VIEWnext編集部が11月11日に開催するオンラインセミナーでは、最新の公表情報を整理して伝える予定だ（P.26参照）。

高校の学習指導要領が改訂されても、大学のアドミッション・ポリシーが大きく変化することは基本的にはない。大学入学共通テ

ストにおける「情報Ⅰ」の新設は非常に大きな変化だが、それ以外は、基本的に、現行課程の教科・科目を引き継いだ入試科目が設定されている。ただ一部には、25年度入試を機に、入試のあり方を見直す大学・学部もある。自校の生徒に進学希望者が多い大学の入試科目の予告・公表には注目してもらいたい。

国語

◎大学入学共通テスト

試験時間が現行の80分から90分となる。大問の構成については未定。

◎個別学力検査

現行入試で「国語総合」を課している大学・学部は、おおむね「現代の国語」「言語文化」に、「現代文B」「古典B」を課している大学・学部は、おおむね「論理国語」「文学国語」「古典探究」に読み替える形で指定しており、入試科目の実態としては大きな変化はないと言える。

地理歴史・公民

◎大学入学共通テスト

①『地理総合、地理探究』、②『歴史総合、日本史探究』、③『歴史総合、世界史探究』、④『地理総合、歴史総合、公共（から2科目）』、⑤『公共、倫理』、⑥『公共、政治・経済』の6科目から最大2科目の選択となる。同じ科目がある組み合わせは、②と③の組み合わせを除いて受験できないので、要注意だ。

6科目のうち、④を除く5つの出題科目は、ほぼすべての大学で利用される。④は、現行入試で「地理A」「日本史A」「世界史A」を利用しない大学・学部において利用されないことが多い傾向にある。つまり、難関大学や文系学部、医学部において利用されない傾向にある。

また、長崎大学（教育学部学校教育教員養成課程中学校教育コース文系前期）のように、現行入試で「地理A」「日本史A」「世界史A」での受験が可能でも、25年度入試では、④で受験ができない場合があるので、注意したい（図4）。

◎個別学力検査

歴史については、東京大学（文科一～三類）のように、「日本史探究」「世界史探究」を出題科目とした大学と、早稲田大学（人間科学部）のように、「歴史総合、日本史探究」「歴史総合、世界史探究」とした大学に分かれる。後者の場合、学習院大学が公表した資料には、「歴史総合」を履修していない「旧教育課程履修者に不利とならないよう配慮して出題」と明記されていた。明記していない大学も、出題上で配慮するものと予想される。

図4 大学入学共通テストにて地理歴史・公民を課す際の『地理総合、歴史総合、公共』の選択

<p>地理歴史・公民を課す際に『地理総合、歴史総合、公共』の選択を可とする大学</p>	<ul style="list-style-type: none"> 旭川医科大学・医（看護） 帯広畜産大学 室蘭工業大学 筑波技術大学 筑波大学 宇都宮大学 東京学芸大学 奈良女子大学・理、工（理2型）、生物環境【食物栄養以外】 九州工業大学 長崎大学【教育（中学文系）〈前〉、情報データ科学〈前後A〉以外】 札幌医科大学 会津大学 群馬県立県民健康科学大学 山梨県立大学 三重県立看護大学 京都市立芸術大学 大阪公立大学【医（リハビリ）〈前〉以外】 広島市立大学 山口県立大学 福岡県立大学
<p>地理歴史・公民を課す際に『地理総合、歴史総合、公共』の選択を不可とする大学</p>	<ul style="list-style-type: none"> 旭川医科大学・医（医） 電気通信大学 東京大学 東京外国語大学 名古屋大学 大阪大学 神戸大学 奈良女子大学・文、工（歴公2型）、生物環境（食物栄養） 九州大学 長崎大学・教育（中学文系）〈前〉、情報データ科学〈前後A〉 大阪公立大学・医（リハビリ）〈前〉

※編集部で作成。詳細は各大学の発表資料をご覧ください。

理科

大学入学共通テスト、個別学力検査ともに、特筆すべき大きな変化はない。一部、25年度入試を機に、出題科目を見直す大学・学部があるので、自校の生徒に進学希望者が多い大学・学部の情報は、確認しておきたい。

例えば、宇都宮大学（地域デザイン科学部建築都市デザイン学科）では、一般選抜前期・後期日程の大学入学共通テストにおいて、現行入試では、「物理」が必須で、「化学」「生物」「地学」から1科目を選択することになっているが、25年度入試では、「物理」「化学」「生物」「地学」から2科目の選択となる。また、三重大学（工学部建築学コース）では、一般選抜後期日程の大学入学共通テストにおいて、現行入試では、「物理」「化学」「生物」「地学」から2科目を選択するが、25年度入試では「物理」「化学」の指定となる。

数学

◎大学入学共通テスト

数学②における出題が『数学Ⅱ、数学B、数学C』のみとなり、「数学Ⅱ」単体での出題がなくなった。「数学B」の2項目（数列、統計的な推測）及び「数学C」の2項目（ベクトル、平面上の曲線と複素数平面）の計4項目から3項目を選択解答することとされ、試験時間は60分から70分に延びることになる。現行の大学入学共通テストでは、約5,000人もの受験生が「数学Ⅱ」を受験していたが、教育課程上「数学B」「数学C」を十分に学習できない生徒にとっては、志望校の選択肢が狭まることになる。

◎個別学力検査

国立大学、私立大学の理系学部では、「数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・B・C」を出題科目とする大学・学部が多いが、基本的には現行入試と同じ重みだと考えてよい。ただし、現行入試において、「数学B」の3つの分野「確率分布と統計的な推測」「数列」「ベクトル」のうち、「数列」「ベクトル」を指定している大学の中で、25年度入試においては、「数学B」の「統計的な推測」を含むこととした大学もある。東京大学（理科一～三類）、東京学芸大学（A類・B類数学コース、E類情報教育コース）などが、それにあたる。

国立大学の文系学部で個別学力検査に数学を課し、範囲を明示している大学については、「数学C」の「平面上の曲線と複素数平面」は出題範囲としないとしている。今後、募集要項等で詳細の確認が必要ではあるが、基本的に、文系学部では「平面上の曲線と複素数平面」は出題されないと考えてよいだろう。

一方、範囲を明示していない大学も多数あり、「数学B」の「統計的な推測」が出題範囲に含まれるのか今後の発表が待たれる。ただ、大学進学後、多くの大学で、文理を問わず「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」を開講する動きが活発になっていることを考えると、「統計的な推測」は学習しておくべき分野と言える。

図5 大学入学共通テストにおける「情報Ⅰ」の配点

大学名	方式	大学入学共通テスト配点			個別学力検査配点	配点合計
		共計	情報Ⅰ	備考		
会津大学	A	100	100	1教科1科目（理科、情報から1教科高得点採用）	500	600
	B	1000	100	6教科8科目（「情報Ⅰ」は必須）	500	1500
群馬県立県民健康科学大学 診療放射線学部	一般	700	100	4 or 5教科6科目（外国語、数学①、数学②必須）（国語、物理、化学、生物、「情報Ⅰ」から高得点の3科目を採用）	未公表	未公表
三重県立看護大学	前	550	50	6教科6科目（「情報Ⅰ」は必須）	220	770
	後	750	50		段階評価	750
京都市立芸術大学 美術学部	一般	500	100	美術、工芸：4教科4科目（国語、地理歴史・公民、外国語必須）（数学①、理科、情報から1科目選択） * 600点を500点に換算	未公表	未公表
		700	100	デザイン：5教科5科目（国語、地理歴史・公民、理科、外国語必須）（数学①、情報から1科目選択）		
		600	100	総合芸術：4教科4科目（国語、外国語必須）（地理歴史・公民、理科から1科目選択）（数学①、情報から1科目選択）		
京都市立芸術大学 音楽学部（作曲、指揮、音楽学）	一般	600	200	3教科3科目（国語、外国語必須）（地理歴史・公民、数学①、数学②、情報から1科目選択）		

※編集部で作成。詳細は各大学の発表資料をご覧ください。

情報

◎大学入学共通テスト

試験時間は60分。国立大学の一般選抜においては、「情報Ⅰ」を選択科目とする大学・学部も一部あるが、必須で課す大学・学部が大半である。総合型選抜と学校推薦型選抜においては、「情報Ⅰ」を必須とする大学・学部が多いが、判断はそれぞれ異なるので、個別に確認が必要だ。

公立大学は、「情報Ⅰ」を必須で課す大学・学部もあるが、国立大学に比べて、選択科目とするか、または課さない大学・学部が多い。

私立大学は、公表した大学はまだわずかだが、「情報Ⅰ」を必須とする大学・学部はなく、一部が選択科目として利用するとしている。

なお、「情報Ⅰ」の配点について公表した大学の一部を、図5にまとめた。他教科・科目と比べて極端に配点が小さいということはない。

◎個別学力検査

課す大学・学部は、まだ見られない。